

更新に関するテクニカル ドキュメント



目次

はじめに

- Google アップデート

- Chrome のバリエーション フレームワーク

- Chrome チャンネルを使用したテストの最適化

更新の管理方法

- 方法 1:自動更新（リリースされたら更新）

 - 更新がリリースされたら Chrome が更新を受信するように設定

 - その他の設定

- 方法 2:バージョンを固定（準備が整ったときに更新）

 - 準備が整ったときに Chrome が更新を受信するように設定

 - その他の設定

- 方法 3:完全に手動で更新（プッシュして更新）

その他の考慮事項

- 帯域幅が不十分な場合

 - メンテナンスの時間枠の設定

 - 段階的に更新

 - 更新をキャッシュに保存

- バグや互換性の問題への対処

 - 再起動通知

 - ロールバック

 - バリエーションの無効化

 - コンポーネントの更新の無効化

- トラブルシューティング

 - ログの収集

 - URL 許可リスト

 - Chrome を実行していないときでも更新は適用されますか？

 - すべてのブラウザは一度に更新されますか？

まとめ

- 詳細情報

はじめに

ユーザーのセキュリティを確保し、Chrome の最新の機能で業務を継続するには、Chrome を最新の状態に保つことが不可欠です。Chrome には更新を管理するためのさまざまな機能があり、組織のセキュリティレベルと管理レベルとのバランスを考慮して管理方法を選択できます。

このテクニカルドキュメントでは、Chrome の更新の仕組みと、更新の管理方法を 3 種類の方法別に説明します。また、環境内の更新管理に役立つその他の情報（バグや互換性の問題への対応、トラブルシューティングなど）についても紹介します。

なお、拡張機能は別のプロセスで更新されます。[拡張機能の管理に関するテクニカルドキュメント](#)をご覧ください。

Google アップデート

Google アップデートは、Chrome に自動更新を実装するための Google のテクノロジーです。Google アップデートは、Windows デバイスで動作する Chrome（およびその他の Google サービス）へのソフトウェアパッチ適用をサポートしています（Mac の Google ソフトウェア アップデートに相当）。

Google アップデートを使用すると、Chrome の新しいバージョンを手動で展開する必要がありません。セキュリティパッチの適用、パッチの一元管理、組織のデバイスへのパッチのプッシュも必要ありません。

また、ポリシーを使用して Google アップデートを設定し、一部のユーザーまたはデバイスの Chrome を特定のバージョンに固定したり、以前のバージョンにロールバックしたりできます。このような操作をする際に、手動での作業や新しい MSI の展開は必要ありません。Google アップデートは Chrome のインストーラに含まれているため、個別にインストールする必要もありません。Google アップデートのポリシーは、[管理コンソール](#)（Chrome の Stable チャンネルのみ）または GPO（すべてのチャンネルが対象）を使用して設定できます。Google アップデートで **[CloudPolicyOverridesPlatformPolicy]**（同じ名前の Chrome ポリシーとは異なる）が設定されている場合を除き、GPO ポリシーが優先されます。[Google アップデートの最新の管理用テンプレートはこちら](#)からダウンロードできます。

Chrome ブラウザを最初にインストールするときのファイルサイズは約 56 MB です。

- 以降、バージョンを更新するときのファイルサイズは約 10~15 MB です。
- パッチ更新のファイルサイズは通常 0.5~3 MB です。

更新元とは連続していないメジャーバージョンに更新する場合、通常はインストールを最初からやり直す必要があります。

Chrome のバリエーション フレームワーク

Chrome のバリエーション フレームワークを使用すると、機能や修正を段階的に有効化（または必要に応じて迅速に無効化）できます。この方法には次のようなメリットがあります。

- ・ 少人数のユーザー グループに新機能をプレビューしてもらい、フィードバックを収集
- ・ 一定の割合のユーザーに変更を展開して、互換性の問題のリスクを最小限に抑制
- ・ セキュリティ アップデートなどの重要な更新を迅速に提供
- ・ 必要に応じて機能をロールバック（Chrome の新しいバージョンを待つ必要がない）
ユーザーはパソコンを再起動するだけで新しい構成が適用される



図 1: Google アップデートと Chrome のバリエーション フレームワークの違いを表した図。三角形は、Chrome のバリエーションによって機能が有効または無効になる様子を表している

Chrome チャンネルを使用したテストの最適化

Chrome のメジャーバージョンは約 4 週間ごとにリリースされます。Chrome の各チャンネルでは、さまざまな開発段階の機能がそれぞれのリリース サイクルで提供されるため、組織は複数のチャンネルを使用して新しいリリースに備えることができます。

- ・ **ほとんどのユーザーには Stable チャンネルを指定します。** Stable チャンネルはテストが完了しており、Google でサポートされています。

- 一部のユーザーに対して、同じバージョンの Chrome を 4 週間以上使用できるようにする場合は、**Extended Stable チャンネル**を使用します。このチャンネルでは、Stable チャンネルのバージョンが1つおきにリリースされるほか、重要なセキュリティ修正もリリースされます。つまり、Extended Stable チャンネルでは 8 週間ごとに新機能がリリースされるため、管理者が更新を管理する頻度が低くなります。重要な問題を修正するために、Extended Stable チャンネルではセキュリティ アップデートが約 2 週間ごとにリリースされます。Stable チャンネルではセキュリティに関する変更や新機能が Extended Stable チャンネルより早くリリースされる可能性があるため、Stable チャンネルのほうがより安全です。ただし、Extended Stable チャンネルでは Stable チャンネルのバージョンが1つおきにリリースされるため、サイクルの最初の 4 週間は Stable チャンネルと同じになります。以下の [Chrome のバリエーション](#)と [コンポーネントの更新](#)の説明をご覧ください。Extended Stable チャンネルまたは Stable チャンネルの構成でこれらのポリシーの活用方法をご確認ください。
- ヒント:** Beta チャンネルのユーザーには、問題を見つけた場合に IT 担当者に連絡する方法を記載したブックマークやドキュメントを提供しましょう。
- 全体の **5% 程度のユーザー**に **Beta チャンネル**を指定します。Beta チャンネルにはリリース予定の機能が含まれています。問題発生リスクが最小限に抑えられており、Google で完全にサポートされています。Beta チャンネルのバージョンが Stable チャンネルでリリースされる前に機能や互換性の問題を可能な限り把握できるよう、Beta チャンネルのユーザーをさまざまな部署に分散して配置するようにします。Windows と Mac のユーザーは [Beta チャンネルと Stable チャンネルを同時に実行](#)できるため、仮に Beta チャンネルで深刻な問題が発生して業務の継続が難しくなった場合は、Stable チャンネルに簡単に切り替えることができます。また、[MetricsReportingEnabled](#) を有効にしてこれらのユーザーの使用状況に関する統計を収集できるようにしておくと、Google で Beta チャンネルの障害を簡単に検出して修正できます。ユーザーが必要に応じてこのポリシーを無効にできるように、推奨として設定することをおすすめします。
- 管理コンソール:** [ユーザーとブラウザの設定] ページ > [その他の設定] > [統計情報の報告]

GPO: [Google] > [Google Chrome] > [使用状況とクラッシュ関連データのレポートを有効にする]

Mac:
MetricsReportingEnabled
- IT スタッフとデベロッパー**は新機能を早期にプレビューするために、**Dev チャンネル**の使用を希望することがあります。Dev チャンネルに含まれる機能が Beta チャンネルや Stable チャンネルでリリースされるかどうかは保証されませんが、今後リリースされる可能性のある機能をテストする良い機会になります。Dev チャンネルは安定していない可能性があるため、TargetChannel を使用して Chrome インスタンスを Dev チャンネルのみに指定するのではなく、Stable チャンネルと並行して使用できるようにすることをおすすめします。
 - Chrome で今後リリースが予定されている機能をテストしたい**デベロッパー**は、**Canary チャンネル**を使用できます。Canary チャンネルに含まれる機能は Google でテストされていないため、不安定なことがあります（実行できるかどうかは保証されていません）。Canary はテスト目的でのみ使用するようにしてください。

チャンネル	リリースの頻度	サポート対象	Googleによるテスト	推奨ユーザー
 Stable	2週間以内 (マイナー) 4週間 (メジャー)	○	テストを完了	ほとんどのユーザー
 Extended Stable	2週間以内 (マイナー) 8週間 (メジャー)	○	テストを完了	高い安定性を求めるユーザー
 Beta	1週間以内 (マイナー) 4週間 (メジャー)	○	リリース予定	全体の5%程度のユーザー
 Dev	週に1、2回		最小限のテストを完了	ITスタッフのみ
 Canary	毎日 (ビルドが完了したらすぐにリリース)		未テスト	デベロッパー (テスト目的でのみ使用)

Stable バイナリを使用して Chrome をインストールした場合、**TargetChannel** を **stable**、**extended**、**beta**、または **dev** に設定することで、[Windows](#) または [Mac](#) で使用する Chrome のチャンネルを指定できます。Beta、Dev、Canary のバイナリはそれぞれのチャンネルのみで使用できます。

更新の管理方法

最も簡単かつ安全に更新を管理するには、自動更新を有効にして、新しいバージョンがリリースされるたびに Google アップデートが自動的に Chrome を更新するようにします。ただし、特定の組織部門（OU）の Chrome ユーザーが使用するバージョンを厳密に管理しなければならないことがまれにあります。Chrome には環境を管理、可視化する方法がいくつかあります。更新の管理方法は、大まかに次の 3 つに分類されます。

1. [自動更新:リリースされたら更新](#)
2. [バージョンを固定:準備が整ったときに更新](#)
3. [完全に手動で更新:プッシュして更新](#)

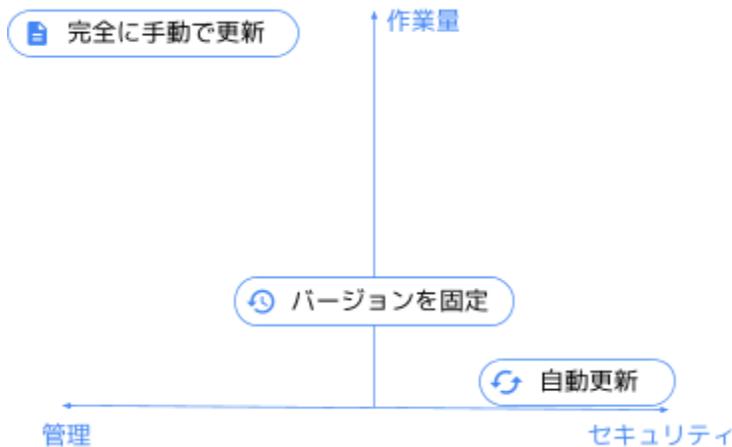


図 2: 更新の管理方法を定性的に比較した図

多くの組織では複数の方法を組み合わせて利用しています。ほとんどのユーザーには自動更新を採用し、一部のユーザーには必要に応じて別の方法を採用しています。特定のユーザーグループに対する更新の管理方法は、ユーザーのブラウザに必要な管理レベルと、環境のセキュリティレベルとのバランスを考慮して判断します。

方法 1:自動更新（リリースされたら更新）

おすすめの方法は、組織の大部分のデバイスに対して自動更新を有効にして、新しいバージョンがリリースされるたびに Google アップデートで Chrome が更新されるようにすることです。重要なセキュリティ修正や新機能がリリースされたらすぐに、組織内のすべてのユーザーがこれらを受信するようにするには、自動更新が最適です。

長所	短所
<ul style="list-style-type: none">• おすすめの方法です。Google 社内でもこの方法が採用されています。• 重要なセキュリティ修正や新しい機能がリリースされるとすぐに、ユーザーはこれらを受信します。• 各リリースやセキュリティパッチを手動で展開したり、一元管理したりする必要はありません。ブラウザが自動で更新します。• 障害やセキュリティ上の脆弱性といったリスクを低減できます。• Chrome のサポートされているバージョンを常に使用できます。• Stable チャンネルがリリースされるまで、Beta チャンネルを使用して最長で 4 週間テストできます。• （オプション）Extended Stable チャンネルを使用すると、テスト期間をさらに長く確保できます。	<ul style="list-style-type: none">• チェンジ マネジメントのテストサイクルが 8 週間を超える場合には対応していません。• 互換性を維持するために、IT チームとアプリのオーナーとの間で緊密な連携が必要です。

更新がリリースされたら Chrome が受信するように設定

更新がリリースされたらすぐにユーザーが受信できるようにするには、[**Update policy override**] を [**Always allow updates**] に設定します。この設定にすると、定期的な更新チェックまたは手動での更新チェック（chrome://settings/help にアクセスしてチェック）で更新が見つかった場合に、自動で更新されます。

[**Automatic silent updates only**] に設定すると、定期的な更新チェックで更新が見つかった場合にのみ更新が適用されます。

[**Manual updates only**] に設定すると、ユーザーが chrome://settings/help にアクセスして手動で更新チェックを行った場合にのみ更新が適用されます。[Manual updates only] は、テスト用デバイスでのみ使用することができます。ただし、エンドユーザーが明示的に更新をチェックするまで更新を受信することはありません。どちらに設定した場合も多少のリスクがあり、更新がリリースされてもすぐには適用されないことがあります（特にユーザーの操作が必要な場合）。

Admin Console
(Windows のみ):
[ユーザーとブラウザの設定]
ページ > [Chrome の更新] >
[Chrome ブラウザの更新]

GPO: [Google] > [Google Update] > [Applications] > [Google Chrome] > [Update policy override]

Mac: UpdateDefault



図 3: Google アップデートで既存の Chrome が自動更新されるプロセス

その他の設定

更新がリリースされたらすぐにユーザーがすべての更新を利用できるようにするには、Chrome のバリエーション フレームワークも有効にして、バージョン間のバリエーションの更新を受信できるようにします。これには、[**ChromeVariations**] を [**VariationsEnabled**] に設定します。また、新しいバージョンをすばやく適用するために、再起動通知ポリシーの使用もご検討ください。

管理コンソール
(Windows のみ):
[ユーザーとブラウザの設定]
ページ > [Chrome のバリエーション] > [バリエーション]

GPO: [Google] > [Google Chrome] > [適用できるバリエーションを指定します]

Mac: ChromeVariations

方法 2:バージョンを固定（準備が整ったときに更新）

ビジネス要件または従来の要件で、チェンジ マネジメントのテストサイクルに 8 週間以上かける必要がある組織では、より詳細に制御する必要があります。このような要件がない組織でも、ユーザーがより安定した環境（所定の期間は使用中の機能が変更されない環境）を求めることがあります。このようなユーザーがいる場合は、新しいバージョンを受信する準備が整うまで Chrome を特定のバージョンに固定する必要があります。

特定の組織部門のユーザーの Chrome を指定したバージョンに固定し、準備ができたときに更新する（ただし、手動では更新を展開しない）には、ポリシーを使用して Google アップデートを設定します。

長所	短所
<ul style="list-style-type: none">チェンジ マネジメントのテストサイクルが 8 週間を超える場合にも対応できます。手動での作業量を最小限に抑えることができます。ユーザーが Chrome の特定のバージョンを必要としている場合に便利です。	<ul style="list-style-type: none">古いバージョンには重要な修正が反映されていないことがあるため、サポートされない可能性があります。

準備が整ったときに Chrome が更新を受信するように設定

特定の組織部門のユーザーが使用する Chrome を指定したバージョンに固定するには、**[目的のバージョンのプレフィックス]** にレビュー済みおよびテスト済みのメジャー バージョンを指定します。たとえば、Chrome のバージョンを 80 に固定する場合は、このポリシーに「**80.**」と設定します（小数点も含みます）。[Chrome Enterprise リリースノート](#)も[定期的にご覧ください](#)。

メジャー バージョンに固定しても、ユーザーはセキュリティ修正を含むマイナー アップデートを引き続き受信します。特定のバージョン（**80.0.3987.158** など）に固定することもできますが、更新やセキュリティ修正を受信できなくなるため、この方法はおすすめしません。

メジャー バージョンに固定する場合であっても、長期間バージョンを固定することはおすすめしません。重要なセキュリティ修正を受信できない、または[Chrome ブラウザ エンタープライズ サポート](#)の対象とならない可能性があるためです。

管理コンソール (Windows のみ): [ユーザーとブラウザの設定] ページ > [Chrome の更新] > [目的のバージョンのプレフィックス]

GPO: [Google] > [Google Update] > [Applications] > [Google Chrome] > [Target version prefix override]

Mac: TargetVersionPrefix

新しいバージョンがリリースされたら、リリースノートで必要なテスト事項を確認し、テストを開始してください。また、Stable チャンネルで次のメジャーバージョンがリリースされるまで、Beta チャンネルでそのリリースに含まれる機能を最長 4 週間テストできます。組織のユーザーの Chrome を新しいバージョンに更新する準備が整ったら、[目的のバージョンのプレフィックス] をテスト済みの最新のバージョンに変更するか、設定を完全に削除してユーザーが最新バージョンの Chrome に更新できるようにします。

新しいバージョンは一定期間をかけて段階的に展開されるため、展開が完了するまでユーザーが新しいバージョンを受信しないことがあります。新しいバージョンに固定する場合は、このことにご留意ください。詳しくは、以下の「[すべてのブラウザは一度に更新されますか?](#)」をご覧ください。

その他の設定

一部のユーザーが使用している Chrome のバージョンをさらに細かく管理する必要がある場合は、[[ChromeVariations](#)] を [CriticalFixesOnly] に設定します。これにより、ユーザーは Chrome のバリエーション フレームワークで提供された重要な修正は受信できるものの、重要度の低い新機能は無効になります。こういった機能は、バージョンの固定を解除したときや、より新しいバージョンに固定したときに受信することになります。

[[ChromeVariations](#)] を [VariationsDisabled] に設定して、Chrome のバリエーションを完全に無効にすることもできますが、この方法は**おすすめしません**。セキュリティよりも安定性を優先する環境でのみ、一時的に使用するようにしてください。また、新しいバージョンをすばやく適用するために、再起動通知ポリシーの使用もご検討ください。

管理コンソール
(Windows のみ):
[ユーザーとブラウザの設定]
ページ > [Chrome のバリエーション] > [バリエーション]

GPO: [Google] > [Google Chrome] > [適用できるバリエーションを指定します]

Mac: ChromeVariations

方法 3:完全に手動で更新（プッシュして更新）

組織によっては、厳格なロックダウン環境（インターネットにアクセスせずに、社内のウェブアプリにのみブラウザを使用）で Chrome を使用している場合があります。このような環境では、Google アップデートを使用するのではなく、毎回新しい MSI を手動でプッシュして Chrome を最新の状態に維持する必要があります。

コンプライアンスを遵守するためにこのような手順が必要になる組織もありますが、完全に手動で更新する方法にはリスクが伴うため、この方法で更新するユーザー数を最小限に抑えるようにしてください。自動で更新しない場合は、ブラウザに重要な修正が適用されないことがあるため、脆弱性の影響を受けて環境を危険にさらす可能性があります。適切なタイミングで更新を適用する作業は、必要に応じてロールバックする作業と同様にとても手間がかかります。前のセクションでも述べましたが、古いバージョンの Chrome で問題が発生しても、Chrome ブラウザ エンタープライズ サポートの対象とならない可能性があります。

この方法を採用する場合でも、新しいバージョンをインストールする前に Chrome をアンインストールする必要はありません。更新するすべてのマシンに新しい MSI をプッシュするだけです。

長所	短所
<ul style="list-style-type: none">チェンジ マネジメントのテストサイクルが 8 週間を超える場合にも対応できます。インターネットに接続する必要はありません。	<ul style="list-style-type: none">多大な手間がかかります。セキュリティとバグの修正を自動で受信することはありません。古いバージョンはサポート対象にならないことがあります。古い MSI を入手できなくなると、ロールバックできなくなります。

その他の考慮事項

帯域幅が不十分な場合

帯域幅が不十分な環境で仕事をしているユーザーがいる場合、すべてのユーザーのブラウザを一度に更新すると、ネットワークに負荷がかかって業務に影響が出ることがあります。帯域幅が不十分なユーザーの業務を妨げることなくブラウザを最新の状態に保つには、Chrome アップデートで Chrome（および Chrome が管理する他のソフトウェア）の更新方法を設定します。選択肢としては、指定したメンテナンスの時間枠内で更新する、一定期間内に段階的に更新する、またはローカルのキャッシュに保存して更新する方法があります。

メンテナンスの時間枠の設定

メンテナンスの時間枠を設定すると、指定した時間帯以外で Chrome が更新されるようになり、ユーザーが忙しい時間帯に業務の中断を最小限に抑えることができます。Chrome が自動更新を行わない時間帯を設定するには、**[Time period in each day to suppress auto-update check]** を有効にします。**[Hour]** と **[Min]** に更新しない時間帯の開始時刻を指定し、**[Duration]** に更新しない期間を分単位で指定します。時刻には、ローカルマシンの時刻を 24 時間形式で指定する必要があります。

```
管理コンソール(Windows のみ):
• [ユーザーとブラウザの設定]
  ページ > [Chrome の更新] >
  [自動更新のチェックを停止する]

GPO:
• [Google] > [Google Update] >
  [Preferences] > [Time period
  in each day to suppress
  auto-update check]

Mac:
• UpdatesSuppressedStartHour
• UpdatesSuppressedStartMin
• UpdatesSuppressedDurationMin
```

段階的に更新

帯域幅が不十分な環境で更新を管理する場合は、段階的に更新する方法も有効です。段階的に更新して、組織のすべてのデバイスが同時に更新されないようにします。更新チェックの間隔を設定することで、更新を遅らせ、ピーク時の帯域幅の使用量を低減できます。ただし、更新を遅らせるとピーク時の帯域幅の使用量を減らすことができますが、帯域幅の総使用量が増えることがあります。

```
管理コンソール(Windows のみ):
• [ユーザーとブラウザの設定]
  ページ > [Chrome の更新] >
  [自動更新のチェック間隔]

GPO:
• [Google] > [Google Update] >
  [Preferences] > [Auto-update
  check period override]

Mac: まだ利用できません
```

段階的に更新するには、**[Auto-update check period override]** を有効にして、**[Minutes between update checks]** に 1~43,200 の数字を指定します。

更新をキャッシュに保存

中間プロキシ キャッシュを使用して、Chrome の更新をローカルのキャッシュに保存することもできます。ほとんどのウェブキャッシング プロキシ サーバーは、更新のキャッシュ保存に対応しています。Google アップデート サーバーから Chrome 更新の URL を受信する（URL のほうがプロキシ サーバーに簡単にキャッシュ保存できる）には、**[Download URL class override]** を **[Cacheable download URLs]** に設定します。

```
管理コンソール(Windows のみ):
• [ユーザーとブラウザの設定]
  ページ > [Chrome の更新] >
  [キャッシュに保存可能な URL]

GPO:
• [Google] > [Google Update] >
  [Preferences] > [Download
  URL class override]

Mac:
• DownloadPreference
```

Chrome の更新をプロキシ サーバーのキャッシュにうまく保存できない場合は、次の設定をお試しください。

- **ファイル オブジェクトの最大サイズ** - 1 GB 以上
- **キャッシュ ディレクトリのサイズ** - メモリ（高速）またはディスクに十分な保存容量があることを確認
- **URL の設定** - `dl.google.com/*` および `www.google.com/dl/*` に設定
- **メモリ内の最大オブジェクト サイズ** - 例:2,000 KB
- **ディスク上のキャッシュ容量** - 大容量のハードドライブ（30 GB 以上）がある場合は、大きい値を設定してより多くのオブジェクトをキャッシュ保存できる

帯域幅が不十分な環境や接続速度が遅い環境でキャッシュをセットアップすると、応答時間が短縮されます。また、帯域幅を節約してより重要なタスクに割り当てることができます。

バグや互換性の問題への対処

特定のバージョンの Chrome で問題が発生した場合は、サポートケースの作成や**バグ**の報告をした後、組織のすべてのデバイスを更新して全ユーザーが修正を受信するようにします。

すべてのユーザーが更新を受信していることを確認するには、管理コンソールの [\[バージョンレポート\]](#) ページにアクセスします。[バージョンレポート] ページでは、組織の全デバイスの Chrome ブラウザと Chrome OS のバージョンを 1 か所で確認できます。また、前回のアクティビティの時刻でフィルタリングできます。

再起動通知

更新を受信しているのに、バージョンが古いままのブラウザがある場合は、ブラウザを再起動する必要があります。管理者は [\[RelaunchNotification\]](#) を [\[Recommended\]](#) に設定し、[\[RelaunchNotificationPeriod\]](#) に通知する間隔（デフォルトは 1 週間、最短 1 時間）を設定して、Chrome を再起動するようユーザーを促すことができます。

管理コンソール (Windows のみ):

- [\[ユーザーとブラウザの設定\]](#) ページ > [\[Chrome の更新\]](#) > [\[再起動通知\]](#)
- [\[ユーザーとブラウザの設定\]](#) ページ > [\[Chrome の更新\]](#) > [\[期間\]](#)

GPO:

- [\[Google\]](#) > [\[Google Chrome\]](#) > [\[ブラウザまたはデバイスの再起動が推奨されるか必要であることをユーザーに通知する\]](#)
- [\[Google\]](#) > [\[Google Chrome\]](#) > [\[アップデートの通知を表示する期間を設定する\]](#)

Mac:

- [RelaunchNotification](#)
- [RelaunchNotificationPeriod](#)

単に再起動をすすめるのではなく、自動的に再起動するには、[\[RelaunchNotification\]](#) を **[Required]** に設定し、[\[RelaunchNotificationPeriod\]](#) に再起動するまでの期間を指定します。指定できる値の最小値は1時間（3,600,000 ミリ秒）で、デフォルトは1週間（168 時間（604,800,000 ミリ秒））です。管理コンソールでは、再起動を通知する期間はミリ秒ではなく時間単位で指定します。

ロールバック

ごくまれにですが、修正プログラムの提供を待っている間、Chrome を以前のバージョンにロールバックしなければならないことがあります。以前のバージョンにロールバックするには、**[目的のバージョンのプレフィックス]** に目的のバージョン（ご利用の環境で正常に動作する最新のバージョン）を指定します。また、ロールバックを反映するために、**[目的のバージョンにロールバック]** を有効にする必要があります。

ユーザーのデータを確実に保持するには、[バージョンのロールバック中にデータを保持する](#) をご覧ください。Chrome の古いバージョン（84 より前）を利用している場合、ユーザーは **[Chrome 同期]** を有効にして閲覧情報を保持する必要があります。

自動でロールバックするには、Google アップデートを使用した自動更新を有効にする必要があります。また、デバイスをドメインに加えるか、ブラウザを Chrome ブラウザクラウド管理に登録する（あるいはこの両方を実行する）必要があります。Chrome は直近の3つのバージョンのいずれかにのみロールバックできます。手動で更新するブラウザの場合、または古いバージョンにロールバックする必要があるブラウザの場合は、[手動でロールバックする](#) 必要があります。

バリエーションの無効化

Chrome のバリエーションフレームワークで有効にした機能によって互換性の問題が発生した場合は、緊急措置として [\[ChromeVariations\]](#) を **[CriticalFixesOnly]** に設定します（または **[VariationsDisabled]** に設定して完全に無効にすることもできますが、この設定はおすすめしません）。バリエーションフレームワークで有効にしたすべての機能は、Chrome を再起動した後無効になります。

管理コンソール (Windows のみ):

- [ユーザーとブラウザの設定] ページ > [Chrome の更新] > [目的のバージョンのプレフィックス]
- [ユーザーとブラウザの設定] ページ > [Chrome の更新] > [目的のバージョンにロールバック]

GPO:

- [Google] > [Google Update] > [Applications] > [Google Chrome] > [Target version prefix override]
- [Google] > [Google Update] > [Applications] > [Google Chrome] > [Rollback to Target version]

Mac:

- TargetVersionPrefix
- RollbackToTargetVersion

管理コンソール

(Windows のみ):
[ユーザーとブラウザの設定] ページ > [Chrome のバリエーション] > [バリエーション]

GPO: [Google] > [Google Chrome] > [適用できるバリエーションを指定します]

Mac: ChromeVariations

コンポーネントの更新の無効化

Chrome にはコンポーネント（重要なコード）があり、場合によってはこれを動的に更新する必要があります。通常、コンポーネントは重大な問題が発見された場合にのみ（通常のリリース サイクル以外で）更新されます。推奨はされませんが、緊急措置として [ComponentUpdatesEnabled](#) を無効にすると、コンポーネントは変更されなくなります。

トラブルシューティング

ログの収集

Google アップデートで予期しない問題が発生した場合は、ログを収集しておくトラブルシューティングで役立ちます。また、サポートケースを作成する際にもログは重要な参考情報になります。ログを収集する手順については、[ヘルプセンター](#)をご覧ください。

URL 許可リスト

Chrome の更新に必要な URL に Google アップデートが確実にアクセスできるようにします。ヘルプセンターには、[許可リストに登録する必要がある URL の一覧](#)が記載されています。

Chrome を実行していないときでも更新は適用されますか？

マシンの電源が入っていてネットワークに接続している間は、ポリシーで Google アップデートが無効になることはありません。新しい更新がリリースされると、Chrome はバックグラウンドで自動的に更新され、次回 Chrome を起動するときに新しいバージョンになります。Chrome を起動するまで、管理コンソールの [バージョン レポート] に引き続き古いバージョンが表示されることがあります。[前回のアクティビティ] で、長期間実行されていない古いバージョンのブラウザを除外するようにレポートをフィルタリングすると、こうした表示を軽減することができます。サードパーティのツールでは、Chrome のバージョンが常に正確に報告されるとは限りません。正確な情報については、対象のデバイスのバージョンレポートまたは `chrome://version` をご確認ください。

ユーザーレベルではなくマシンレベルで Chrome をインストールしている場合は、ユーザーがデバイスにログインしていなくても更新が適用されます。いずれの場合も、OS にログインしているユーザーに管理者権限がなくても、Chrome は自動更新されます。

組織内のブラウザはすべて一度に更新されますか？

Chrome の新しいバージョンがリリースされると、はじめにランダムに選択されたごく一部のブラウザが更新され、その後徐々に更新されて最終的にすべてのブラウザが更新されます。組織のすべてのマシンが更新されるまでに 1 週間以上かかることがあります。更新の完了までにかかる期間は、更新を迅速に展開するための取り組みや、展開を一時停止する必要性の有無に応じて異なります。Chrome を最新のバージョンに固定すると、最新のバージョンが完全に展開されるまで新しいバージョンを受信できないことがあります。ただし、マイナーバージョンを指定して固定することで、更新の遅れを回避できます。マイナーバージョンに固定する場合は、以降の更新を受信する前に、[目的のバージョンのプレフィックス] を削除または更新する必要があります。[詳細については、こちらをご覧ください。](#) [VersionHistory API](#) を使用して、Chrome のバージョン履歴をプログラマティックに確認することもできます。

まとめ

本書では、ご利用の環境の Chrome を管理、可視化する方法の一部を紹介しましたが、Chrome には他にもさまざまな管理方法があります。このような管理方法を使用して、ユーザーのセキュリティレベルと安定性のバランスが最適になるようにします。ほとんどの環境では、次のようにすることをおすすめします。

- Google アップデートを使用して自動更新を有効にする
- Chrome のバリエーションを有効にしておく
- Beta チャンネルでテストして、次回リリースされる機能をプレビューする
- Chrome Enterprise リリースノートを定期的に確認する

詳細情報

- [Chrome ブラウザクラウド管理に関するテクニカルドキュメント](#): Google 管理コンソールで Chrome を管理する
- [拡張機能の管理に関するテクニカルドキュメント](#): 拡張機能の管理の詳細 (拡張機能の更新を含む)
- [Chrome Enterprise リリースノート](#)
- [Enterprise のダウンロード](#): Chrome (Beta チャンネルを含む) のインストーラとポリシー テンプレート、および Google アップデート
- デベロッパー向けの[ヘッドレス Chrome を使用した自動テスト](#)